

○全体景況（緩やかに改善している）

・生産は、輸送機械が自動車部品で好調、電子部品・デバイスが半導体集積回路で好調など、堅調に推移。設備投資は、生産性向上や省力化のための投資で積極的な動き。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、高額商品が好調に推移し、インバウンド消費も引き続き好調。

○生産

- ・輸送機械：乗用車国内販売や海外向け自動車部品等を中心に、関東、東海、中国で好調。
- ・電子部品・デバイス：
車載向け、スマートフォン向けを中心に、東海、北陸、中国で好調。
- ・はん用・生産用・業務用機械：
半導体関連や自動車関連工作機械等を中心に、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国で好調。

○設備投資

- ・製造業：設備の維持・更新に伴う投資に加え、受注増加や新製品対応に向けた生産性向上の投資や人手不足対策としての合理化・省力化の投資がみられ、多くの企業で積極的な動き。
- ・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装等への投資に加え、一部に人手不足対策としての省力化投資への動き。

○雇用情勢

- ・製造業：技術職や現業職の不足が継続しており、特に中小企業では大企業との競合により人材の確保が困難。人手不足をロボット導入による生産性向上で対応する動き。
- ・非製造業：建設業、小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。就業時間見直し等働き方の多様化への対応や賃上げ等待遇改善の動きや省力化・自動化の推進の動き。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：百貨店は、化粧品や免税品、高額品の売上好調。
スーパーは、他業態との競合から客数減も、飲食料品が好調のため堅調に推移。
- ・コンビニエンスストア：新店効果に加え、カウンター商材や中食が好調。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、高付加価値商品が好調。
- ・家電大型専門店：白物家電を中心に高機能製品が好調。
- ・乗用車販売：軽自動車や小型乗用車を中心とした新型車効果により好調。
- ・観光：外国人観光客が増加しており、インバウンド消費は引き続き好調。

7-9月期企業の声

企業の主な声

生産

- ・原料の輸入が増加したことから水産加工品が増産。(食料品／北海道)
- ・半導体、エレクトロニクス分野の受注が堅調で高止まりした状況(生産用機械／関東)
- ・フル生産、フル稼働が継続し、中国を中心とした海外向けで増産。(輸送機械／東海)
- ・車載向け、通信機器向けで高機能化による電装品数・部品数の増加で需要拡大。(電子部品・デバイス／北陸)
- ・定期修理あけで概ね高稼働率を維持しており、増産。(化学／中国)

設備投資

- ・スマートフォンや自動車向け電子部品の製造設備について来年度分を前倒しする。(電子部品・デバイス／関東)
- ・省力化投資等を積極的に進めており、投資額はここ数年にはない規模となる見込み。(繊維／北陸)
- ・省人化設備を増やすことでコストカットと作業効率アップに期待。(運送／近畿)
- ・研究センターを新設して新製品の開発を進め、次の成長分野へ対応していく。(はん用機械／九州)

雇用

- ・募集に対する応募がなく、より高い時給を求めて退職すら起こっている。(小売／東北)
- ・大手・安定志向が根強く、中小企業の採用難は慢性化している。(業務用機械／関東)
- ・残業時間削減のため、条件を全員が達成した場合に支給する「働き方改革手当」を実施。(家電量販店／中国)
- ・人口減少等で地元従業員の採用減から海外研修生などの活用を視野。(プラスチック／四国)

消費

- ・小型乗用車、軽自動車ともに、安全装備を搭載した車種の好調が継続。(乗用車販売／北海道)
- ・白物家電が好調に推移。購買動向として高付加価値・高単価の商品が伸張。(家電量販店／東海)
- ・特選ブランドや時計など高額品の動きをみると、消費マインドは改善の兆しがうかがえる。(百貨店／近畿)
- ・近年就航したLCCにより香港からの訪日客が急増し、免税売上が前年同期比約3倍。(百貨店／九州)
- ・前年比では観光入域客数の増加、前期比では夏期休暇等による影響で好況。(宿泊・飲食サービス／沖縄)

最近のトピックス

- ・気温の低下により、飲料やアイス、冷たい麺類などの売上が大きく落ち込んだ。(コンビニ／東北)
- ・天候不順で気温が低めに推移した8月は秋物商品に動きが出てプラスに寄与。(百貨店／関東)
- ・8月に関しては東日本における冷夏の影響で、エアコンについては販売予測を下回った。(電気機械／近畿)

北海道

全体景況

〈持ち直している〉

生産は建設資材が減産するものの、情報機器の増産から持ち直しの動き。個人消費は飲食料品が堅調なことから持ち直し。観光は外国人観光客の増加等から引き続き好調。

個別の動向

(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は持ち直しの動きがみられる

- ✓ 道外工事の遅れから建設資材が減産。
- ✓ 一方、海外向け生産開始や国内向け新機種の量産から情報機器、不漁による原料輸入増から水産加工品が増産する等、持ち直しの動き。

○設備投資は増加している

- ✓ 29年度は、生産能力増強投資や人手不足対策としての省力化・合理化投資から、製造業・非製造業ともに前年度比で増加。
- ✓ 製造業では、食料品や輸送用機械で工場の新設や生産設備の増強投資等。
- ✓ 非製造業では、小売で新規出店や物流施設の新設、ホテルの新設等。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。
- ✓ 一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。
- ✓ このため、定年延長・再雇用による高齢者や事業所内保育所の設置による女性、派遣社員の活用に加え、中途採用を実施。また、休日の増加、労働時間の短縮、賃上げ、正社員への登用等により待遇改善を図り、人員を確保。

○個人消費は持ち直している

- ✓ 百貨店は、化粧品や時計等の免税売上げが好調だったものの、一部店舗の閉店（28年9月末）の影響により売上げが減少。スーパーは、飲食料品が引き続き堅調。
- ✓ コンビニエンスストアは、低温により夏物商材が不振。ドラッグストアは、化粧品が好調。
- ✓ 新車販売は、安全装備を搭載した小型乗用車、軽自動車为好調。
- ✓ 観光は、国際線の増便に伴う外国人観光客の増加等から、引き続き好調。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

97.5(98.1)

有効求人倍率
※季節調整値

1.09(1.09)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

0.9%(▲0.1%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

▲0.8%(2.4%)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

東北

全体景況

<一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している>

生産は半導体関連が好調で持ち直しの動き。個人消費は新車販売で持ち直しも長雨の影響もあって全体としては足踏み。雇用情勢は人手不足感がより顕著に。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

○生産は持ち直しの動きとなっている

- ✓ 電子部品・デバイスは、車載・スマートフォン・ゲーム機向けを中心に高水準の中、漸減傾向。
- ✓ 生産用機械は、半導体関連、自動車向けで好調。
- ✓ 輸送機械は、一部新型車効果により増加も、一服感がみられる。
- ✓ 情報通信機械は、民生用機器等により弱い動きが継続。
- ✓ 生産の先行きは、「変化なし」とする見通しが多い。

○設備投資は緩やかに持ち直している

- ✓ 前期調査時点からの計画変更は少なく、8割を超える企業が前期時点と「変更なし」としている。
- ✓ 平成29年度の設備投資額は、製造業が新製品対応や合理化・省力化投資がみられ、全体としては堅調であった前年度並みの計画。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 平成29年8月の有効求人倍率は、1.44倍、新規求人倍率は1.93倍となっており、それぞれ、最高水準となっている。
- ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業がさらに増加して、6割を超え人手不足感が顕著。
- ✓ 被災県の沿岸地域では、職種等によるミスマッチが依然として顕著。
- ✓ 今後の懸念材料として、地元就職希望者数の減少により、ますます人材確保が難しくなっているとの声がある。

○個人消費は足踏み状態となっている

- ✓ 百貨店・スーパーは、百貨店の高額品や衣料品などで動きがみられるが、全体としては節約志向が継続しており、横ばい圏。
- ✓ コンビニエンスストア、ドラッグストアは、新店効果などにより堅調。コンビニエンスストアでは8月の長雨の影響がみられた。
- ✓ 新車販売は、新型車効果に加え、軽自動車の復調により持ち直しの動きがみられる。
- ✓ 売上の先行き見通しについては、「変化なし」とする企業が多い。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

102.8(102.0)

有効求人倍率
※季節調整値

1.44(1.44)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.5%(▲1.5%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

▲0.6%(2.9%)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

関東

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は輸送機械等が好調で緩やかな持ち直しの動き。雇用情勢は改善。個人消費は乗用車販売が好調なほか、百貨店で高額商品等が好調など緩やかに持ち直している。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は緩やかな持ち直しの動きがみられる

- ✓ 輸送機械は、乗用車の国内販売が好調であることに加え、輸出向けについてもSUV等の人気車種が好調であることから、フル生産を続けている企業もみられ、生産は好調に推移。
- ✓ 一般機械及び電気機械は、半導体関連の設備・機械装置向け需要が好調に推移。
- ✓ 電子部品は、一部でスマートフォン向けに需要が減少したとの声が聞かれたものの、自動車向けは好調。
- ✓ 鉄鋼業は、国内自動車向け需要が堅調に推移。先行きとして、オリンピック関連など建設分野における需要を期待。

○設備投資は前年度を上回る見込み

- ✓ 製造業では、大企業、中小企業ともに当初の計画どおりに設備投資を行うとの声が多数を占める。中小企業を中心に、継続する好調な受注や人手不足を受け、生産能力の増強や生産性向上を目的に設備投資を前倒し・追加するとの声も聞かれた。
- ✓ 非製造業においても、当初計画どおりに設備投資を行うとの声が多数を占める。新規出店の加速や組織再編に伴う設備投資の追加といった声が一部で聞かれた。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 製造業では、引き続き技術職が不足しており、現業部門における人員の不足感も増している。特に中小企業では、大企業との競合等により人材の確保がより難しい状況。
- ✓ 非製造業では、技術者や小売業でのアルバイト等が不足。また、人材確保のため、短時間勤務など働き方の多様化に対応する動き。

○個人消費は緩やかに持ち直している

- ✓ 百貨店では、引き続き化粧品や高額商品が好調。また、梅雨明けが早かったことにより夏物が動いたことに続き、8月の気温低下により秋物にも動きがみられた。インバウンドは、引き続き好調。
- ✓ スーパーでは、節約志向は続いているものの、惣菜や簡単・便利な食品等付加価値があるものは引き続き堅調。
- ✓ コンビニエンスストアでは、惣菜、デザート、カウンター商材等、こだわりのある商品が引き続き好調で、客単価も上昇。
- ✓ 乗用車販売は、小型車を中心とした新型車効果から引き続き好調。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

有効求人倍率
※季節調整値

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

96.9(94.9)

1.57(1.52)

1.2(▲0.9)

2.0(3.1)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、輸送機械に増加の動き、電子部品・デバイスが緩やかに増加。個人消費は、コンビニエンスストア、ドラッグストア、乗用車販売などが堅調であることから、緩やかに持ち直し。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は増加の動きがみられる。 ✓ 主力の輸送機械は、自動車部品が海外向けを中心に好調なことから、増加の動きがみられる。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に、緩やかに増加している。 ✓ 金属工作機械は、国内は半導体製造装置向けが好調、海外向けは自動車や航空機に加え、一般機械などにも動きがみられ、全体として緩やかに増加している。</p> <p>○設備投資は増加している。 ✓ 製造業は、積極的な合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品では新製品対応、ファインセラミックスや半導体関連では能力増強の動き。特に大企業では、継続的な投資の動き。 ✓ 非製造業は、百貨店やスーパーでは改装、コンビニエンスストアやドラッグストアで新規出店や改装の動き。 ✓ 製造業・非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善している。 ✓ 製造業では、大企業は、不足感が緩和しているものの、技術者を求める声が多い。中小企業では、依然として不足感が継続。 ✓ 非製造業では、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続しており、募集しても人が集まりにくい状況。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している。 ✓ 百貨店は、催事による効果に加え高額品に動きが見られたものの、衣料品が振るわなかった。インバウンド消費は、引き続き好調に推移している。 ✓ スーパーでは、同業間及びコンビニエンスストアやドラッグストアなど他業態店との競合激化に加え、夏場の天候不順などにより、飲食料品が振るわなかった。 ✓ コンビニエンスストアでは、カウンター商材や中食が好調。ドラッグストアでは、新規出店効果に加え、化粧品や医薬品が堅調。家電販売店では、季節空調や白物家電が好調。乗用車販売店では、軽自動車を中心に堅調。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>119.5(111.2)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.79(1.80)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲0.6%(▲1.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.0%(2.8%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(北陸)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、電子部品・デバイス、化学を中心に高水準で推移し、個人消費は、スーパー、自動車販売を中心に緩やかな持ち直しの動きがみられる。</p>
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は高水準で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子部品・デバイスは、スマホ向けや自動車向けなどが増加し、好調に推移。 ✓ 化学は、後発医薬品の一部で伸びが鈍化しているものの、高水準で推移。 ✓ はん用・生産用・業務用機械では、工作機械は自動車関連などが好調に推移、建設機械は海外向けが好調で、国内は新排ガス規制前の駆け込み需要などにより増加。 ✓ 繊維では、衣料は海外向けが堅調なものの、国内向けは低調に推移。産業資材関連は、医療・福祉向けは拡大し、エレクトロニクス関連なども好調に推移。 ✓ 金属製品は、住宅用建材は弱含みとなっているが、ビル用の首都圏大型物件向けは徐々に増加。 <p>○設備投資は高水準で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業は、生産能力増強に加え、生産性向上のため省人・省力化などの投資も積極的に行われている。 ✓ 非製造業は、大型案件は落ち着いたものの、新規出店や店舗改装などは引き続き行われている。 <p>○雇用情勢は着実に改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、派遣社員の増員や社内における配置換えなどで人員の最適化を図っているが、一部で派遣社員などの確保が困難になっているとの声も聞かれ、ロボット導入の生産性向上により対応する動きもみられる。 ✓ 非製造業では、再雇用や高齢者の採用などで対応する動きもみられるが、慢性的な人手不足が続き、労働需給はひっ迫している。 <p>○個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ スーパーは、新規・改装した店舗は好調、コンビニエンスストアは、客数は減少しているものの、日用雑貨の品ぞろえの充実などから買上点数が増え、客単価は上昇している。 ✓ 自動車販売は、環境対応車に加え、予防安全装置対応車といった車の販売台数が伸びている。 ✓ 観光は、北陸新幹線開業3年目となり、国内観光客数は足踏みがみられるが、外国人観光客は引き続き増加しており、アジアに加え、欧米からの来訪も増えている。

関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	138.1(126.4)	1.91(1.90)	3.1%(1.2%)	1.2%(3.4%)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

近畿

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉 生産は、はん用・生産用・業務用機械、電気機械を中心に横ばいながら高水準で推移。個人消費は、百貨店、コンビニ、乗用車等が好調であることから緩やかに改善している。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は横ばい傾向 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、自動立体倉庫装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置等が高水準で推移。 ✓ 電気機械は、車載用リチウムイオン蓄電池やエアコン等が堅調。 ✓ 電子部品・デバイスも堅調に推移。 ✓ 化学は、化粧品が好調。 ✓ 総じて生産は高水準で推移しており、生産ラインをフル稼働しても受注に追いつかないといった声が多く聞かれる。</p> <p>○設備投資は緩やかに増加している ✓ 製造業では、設備の維持・更新を中心に、一部では市場の需要増に応えるため、生産能力の増強投資が行われている。また、人手不足を補うための自動化や研究開発への投資がみられる。 ✓ 非製造業では、倉庫を始めとする物流施設への投資や、小売業で需要拡大のための新規出店や店舗改装がみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 人手不足が続いている。小売業やサービス業を中心にパート・アルバイトの確保が困難であり、時給アップ、短時間勤務の導入、省力化・自動化の推進等で対応している。また、製造業を中心に技術者や有資格者が集まりにくいとの声が多く聞かれる。 ✓ 新規採用は、例年並みの採用者数を継続する意向が強いが、内定辞退など採用難の声も聞かれる。 ✓ 働き方改革は、残業抑制、休暇取得促進等の取り組みがみられる。</p> <p>○個人消費は緩やかに改善している ✓ 百貨店は、円安株高の効果もあり免税品や高額品の売上が好調に推移。スーパーは、他業態との競争から客数の減少が続いているものの、惣菜等が好調で客単価は上昇傾向。コンビニは引き続き好調。 ✓ 家電は、高機能・高単価の白物家電に加え、新型ゲーム機等が好調。乗用車は、軽自動車の新型車効果等により前年を上回っている。 ✓ インバウンド消費は、百貨店を中心に当面好調を維持するとの声が聞かれる。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p>110.6(105.7)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.49(1.46)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.8%(▲0.5%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>3.4%(4.6%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中国

全体景況

〈緩やかに持ち直している〉

生産は、化学や自動車が増産で緩やかな持ち直しの動き。個人消費は、衣料品は低迷、高額商品や高付加価値商品が好調で緩やかに持ち直している。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

○生産は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ 鉄鋼は、一部設備故障の影響により減産。
- ✓ 化学は、一部事業所における定修あけにより、増産。
- ✓ 自動車は、年度後半に向けての販売増加、新規部品立ち上がり等の影響で増産。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、受注増加により、やや増産。
- ✓ 電子部品・デバイスは、好調を維持しており、横ばい。

○設備投資は持ち直している

- ✓ 製造業では、受注増加や新製品対応に向けた前向きな動きに加え、老朽化や生産性向上への対応として行う既存設備の維持更新が進められている。
- ✓ 非製造業では、引き続き、新規出店や既存店の改装、設備の維持更新が進められている。

○雇用情勢は着実に改善が進んでいる

- ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では現業職や技術職、非製造業では販売員やドライバーなど様々な職種で人員不足の声が聞かれる。従業員やパートの定着・確保のため賃上げを実施したとの声も聞かれた。

○個人消費は緩やかに持ち直している

- ✓ 百貨店では、化粧品や富裕層による高額商品の購買は好調だが、衣料品の低迷が続き、消費の二極化がみられる。
- ✓ スーパーでは、土用の丑のうなぎは好調だったが、総菜がポテトサラダの0-157の影響により低迷し、衣料品が苦戦している。
- ✓ ホームセンターでは、猛暑により扇風機がよく売れ、灯油の価格上昇や新店効果が売上げの増加につながった。
- ✓ 家電大型専門店とドラッグストアでは、高付加価値商品が選ばれており好調が続いている。
- ✓ 9月は広島東洋カープの優勝セールが好調だった。
- ✓ 乗用車販売は、14ヶ月連続で前年を上回っている。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

100.5(95.3)

有効求人倍率
※季節調整値

1.73(1.67)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

0.1%(▲1.4%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.5%(5.1%)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

四国

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉 生産は、建設機械や輸送用機械(造船)などに引き続き弱い動きもみられ、一進一退。個人消費は、飲食料品が底堅い動き。白物家電や乗用車も堅調に推移。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は一進一退となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ パルプ・紙・紙加工品は衛生用紙などが、電気機械は光電変換素子などが、それぞれ堅調な外需に支えられ、おおむね高水準。 ✓ 食料品は業務用調味料などが、プラスチック製品は汎用フィルム製品などが、それぞれ需要好調であり、持ち直しの動き。 ✓ 繊維、化学・石油石炭製品、窯業・土石、鉄鋼、非鉄金属などはおおむね横ばいで推移。 ✓ はん用・生産用機械は建設機械などで外需が低調であり、輸送機械(造船)は受注に改善の兆しがみられるものの、依然、操業度は低調である。 <p>○設備投資は緩やかな持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 平成29年度の設備投資は、製造業ではプラスチック製品、はん用・生産用機械、電気機械を中心に増産・新規受注対応といった積極的な投資計画が増加。非製造業では、小売で店舗の新設や改装などに前向きな計画も。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業、非製造業ともに多くの事業所で雇用者数が不足しているとの声が聞かれ、特に、小売、建設において顕著。 ✓ 人手不足感が強い事業所では、新規採用の拡充や中途採用の募集、派遣や外国人研修生の活用などの対応がなされているほか、賃金など処遇面での改善が進められている。 <p>○個人消費は持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店は、高額品に一部動きがみられるものの、主力の衣料品は低調。スーパーは、主力の飲食料品で生鮮野菜は低調であるが、総菜、冷凍食品などを中心に堅調に推移。コンビニエンスストアでは、カウンター商材や総菜、冷凍食品などが好調。 ✓ 家電販売は、4Kテレビや白物家電の高単価商品に動き。乗用車販売は、小型乗用車、普通乗用車が新型車を中心に持ち直し。軽乗用車も前年を上回る動き。 			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p>101.8(91.4)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.50(1.47)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.1%(▲1.0%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>1.8%(3.9%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※電気機械に電子部品・デバイスを含む。

九州

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は高い水準が続く中での一服。設備投資は増産及び人手不足に対応した増加がみられる。個人消費は高額品及び化粧品等が底堅く緩やかに持ち直している。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

○生産は横ばい傾向

- ✓ 輸送機械は、8月は稼働日減による生産減になるも、海外向けを中心に高い生産水準を維持している。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、スマートフォンや自動車関連の受注の設備投資が好調で生産増も、一部に高い生産水準が続く中での一服がみられる。
- ✓ 素材関連は、窯業・土石、非鉄金属、化学にて電子部材向けの生産が好調に推移。鉄鋼も自動車向け、建材、プラント装置向けの生産が続いている。
- ✓ 電気機械は、自動車向けの電気機械及び電子部品の受注が好調で増産も、一部で部材調達の不足による減産も生じている。

○設備投資は増加している

- ✓ 製造業では、国内外の受注に対応するための増産に向けた投資及び新分野への投資がみられた。
- ✓ 非製造業では、耐震補強及び売り場改装の工事や新規出店等の投資計画がみられた。
- ✓ 製造業、非製造業ともに、人手不足への対応を目的とした投資がみられた。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 有効求人倍率が過去最高の水準で推移しており、製造業、非製造業ともに、人材不足が慢性化。
- ✓ 人手不足が成長の制約要因となることを懸念する声もある他、派遣社員を採用しても職種の違いが大きいと離職率が高いとの声も聞かれた。

○個人消費は緩やかに持ち直している

- ✓ 百貨店・スーパーでは、台風や大雨の影響に加え、気温が高めに推移し、来店客数が減少した店舗がみられたものの、ラグジュアリーブランド、宝飾・貴金属等の高額品や化粧品は底堅い動き。また、インバウンド需要も増加している。
- ✓ 観光レジャーは、夏休みシーズンに入り、好調なリゾートホテルもあるものの、昨年7月からの「ふっこう割」の反動で、国内旅行は減少。
- ✓ 住宅関連は、販売棟数は減少ながらも中高級商品にシフトし、棟単価は上昇傾向にあるとの声も聞かれた。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

106.3(106.6)

有効求人倍率
※季節調整値

1.42(1.38)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

0.5%(1.9%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

2.4%(5.7%)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

沖縄

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の観光客数の増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費が堅調に推移している。また、設備投資も底堅く推移している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばいとなっている ✓ 管内の主要な製造業である食料品工業は、弱含んでいる。 ✓ 窯業・土石製品製造業等においては、公共工事、ホテル等建設において需要増が見られるとの声も聞かれた。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 非製造業を中心に平成29年度計画を増額している。 ✓ 製造業では老朽化に伴う設備更新を実施するとの声が多かった。 ✓ 非製造業では店舗・事務所等の新設・移転・拡大を実施する等の声が多かった。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの1倍台を超えており堅調に推移している。 ✓ 正規・非正規職員ともに不足しているとの声も多い。 ✓ 建設業や情報通信業での技術者不足、小売業、サービス業での人手不足は依然として続いている。</p> <p>○個人消費は改善が続いている ✓ 百貨店・スーパーを中心に堅調に推移している。 ✓ 全体的に、客数、客単価とも増加傾向。 ✓ 一部には、値上がりした商品の売り方の変更等により売上を上げているとの声が聞かれた。 ✓ 観光は、トップシーズンの旅行需要や航空路線の拡充等により、入域観光客数が59ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移している。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">94.8(105.1)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.11(1.13)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.7%(2.4%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.4%(5.7%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値(鉱工業生産指数は7月、括弧内は4月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。